

広告

企画・制作 / (株) 宣通
TEL. (052) 979-1602

健康講座
ドクター

+

Q&A

Q 前立腺肥大症と診断されました。処方された薬は一生飲み続けなければならぬのでしょうか。

A 前立腺肥大症は、前立腺という男性特有の器官が大きくなることで尿の通り道を圧迫するため、排尿困難、夜間頻尿などの症状が出ます。薬には2つのタイプがあります。

1つ目は、前立腺や尿道の筋肉をリラックスさせ、尿の流れを改善する薬で、数日から数週間で効果が現れます。稀にめまいや低血圧、射精困難が生じることがあります。内服を中止すると症状は元に戻ります。

2つ目は、男性ホルモンの働きを抑え、前立腺を小さくする薬です。薬を始め

て3ヶ月程度で効果が現れ始めます。副作用は稀に性欲減退や勃起不全などの症状があります。薬をやめると前立腺は再び大きくなつてきます。つまり処方された薬は飲み続けなければいけません。

しかし、薬の効果が低下、効果がない、内服できない場合、他の治療法として手術があります。内視鏡を尿道に通し、前立腺を切除して尿道を広げます。以前は電気メスを使用していましたが、レーザーによる手術が行われるようになりました。手術の有効性は高く、長期的な改善が期待できます。ただし、一時的な尿漏れや性機能に影響を及ぼすことがあります。



院長 折笠 一彦
(仙台腎泌尿器科)

1994年福島県立医科大学卒業。
1998年東北大学大学院泌尿器科学専攻卒業。
八戸市立市民病院、東北労災病院、白河厚生総合病院、東北大学病院、気仙沼市立病院勤務。
2022年4月より仙台腎泌尿器科。